

教育目標 「 豊かな心で たくましく 自分の人生を切り拓く 生徒 」

重点目標 「 豊かな心 確かな学力 健やかな身体 」

あ さ ひ こ
中朝日子

佐渡市立畑野中学校 学校だより

令和 3 年 8 月 2 6 日 (木) 第 7 号

著・編 校長 雑賀 裕 (TEL 66-2058)

<http://hatano-js.sado.ed.jp/>

E-mail hatano-js@sado.ed.jp

現状把握とこの先の充実 (2 学期始業式「校長講話」)

35 日間の夏休みが終わり、本日、2 学期の始業式を迎えました。

昨年に引き続き、思い描いた夏休みではなかったと思います。

夏休み前から、佐渡島内における新型コロナウイルス感染症の感染者が日を追う毎に増え、また、気温の上昇に伴う熱中症対策から、学校の活動を止める期間がありました。

お盆を過ぎた頃から、佐渡島内の新たな感染者の報告はされていないようですし、気温も涼しさを感じる日が増えてきました。改めて、今日、生徒の皆さんとともに予定どおり 2 学期の始業式を迎えられたことに感謝しているところです。

しかし、新型コロナウイルスの感染者数は増加の一途となっています。新潟県でも 100 人を超す日が増え、全国の状況は、13 都府県で「緊急事態宣言」・16 道県で「まんえん防止等重点措置」と 9 月 12 日までの措置を決めています (8 月 25 日現在)。29 / 47 都道府県 (約 61%) で対策を講じています。

現在の佐渡島内の静けさは、島民の努力によるところが大きいと思いますが、安心して油断したりできる状況ではありません。感染防止対策を再度確認徹底する必要があります。私たち一人ひとりが冷静に正しい行動をし続けることが重要です。みんなでみんなを守る努力を続けましょう。

以上のことを踏まえ、2 学期のスタートラインに立ちましょう。

2 学期は、体育祭や学習発表会に代表されるように全校で取り組む大きな行事があります。また、3 年生は延期を強いられていた修学旅行も予定されています。全て制限の中での取組が予想されます。「いつもどおり」をイメージすれば、出来ないことが多いかも知れません。だからといって【出来ない】と嘆いても先は見えません。『現在の状況下での正しい行動』について、「どのようにすれば」、「どこまでなら」など、【これなら出来る】を考え実行していきましょう。難しい挑戦だと思いますが、コロナ禍における行動は昨年から既に経験済みです。それらを負の財産とせず、これから (未来) を乗り切る資料として活用するくらいの気概をもって取り組んでいきましょう。

現在実施されている、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのコンセプトは「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」の 3 つです (公式 HP より)。このコンセプトに学び、私たちも、一人ひとりが主体的に、みんなのための意見を交わすことが大事だと思います。そして、その取組こそが、皆さん一人ひとりの人生を切り拓く力となって皆さんの心に根づいていくものだと思っています。

2 学期は勝負の学期です。皆さんの奮起に期待します。

「私の主張発表会」

(R30824 アミューズメント佐渡)

乗り越えるために

3年 渡部



想えば、私は飽きやすい性格だった。

小学校の入学式、生まれて初めての学校に期待で胸がいっぱいだった。しかし、徐々に慣れていくと、期待が消え学校へ行くことがどうとも思わなくなった。

私は、小学4年まで赤泊で暮らしていた。もともと怒りやすいところがあり、人にかかわれると、すぐカッとなってしまふ。そんな私にも、友だちはいつも優しく接してくれた。ともに笑ったり、時には喧嘩したりした。友だちという時間が、私にとって「楽しみ」だったのだ。

友人を誘って野球クラブに入団した。最初は、「野球選手になりたい」と気合いを入れたが、その夢はあっけなく崩れた。私は、一緒に入った友人どころか、下級生にまで追い越されていた。そんな私が唯一楽しめたのが練習後のアイスクリームだった。夜に2時間汗だくになって練習して、風呂に入った後に食べるアイスクリームは格別だった。

小学生の私が一番嫌だったのは、そろばんだった。毎日必ず練習しろと言われて4年間、私は毎日いやいや練習していた。また、国語が苦手だったため、国語のワークもやらされた。そろばんよりはやる気になれたが、いくらやっても自分の解答と答えが合わない。その結果が、私を国語から離す理由となった。

逆に私が好きだったのが水族館だ。水槽で泳ぐ生き物、涼しく穏やかな環境は、私を海の中に連れて行ってくれた。最も印象に残っているのは、山形県の加茂水族館。人気があり、1時間以上待たされたが、その先にはクラゲの泳ぐ静かな空間が広がっていた。

赤くて今にも絡まりそうなアカクラゲ、華やかで毒々しさもあるハナガサクラゲ、まるで光るウリのように宙を舞うウリクラゲ。大小色鮮やかなクラゲがたくましく生きていた。さらに奥へ進むと、大きく丸い水槽に百ものミズクラゲが美しく舞っていた。そこはとても神秘的な空間だった。私はその光景を真剣に眺めていた。何もかも投げ出してずっとここに居たい。そんなことも考えてしまった。

小学5年の時、現在生活している畑野に引っ越

してきた。それと同時にものすごい速さで時が流れ、私を置き去りにした。赤泊の旧友との別れを惜しむ間もなかった。

中学校生活が始まった。野球部に入った私は、努力する仲間も練習内容も変わり、前とは違う姿勢で練習に打ち込んだ。しかし、私は以前のままだった。守備ではエラーを重ね、バッティングでも打てない。まさに足手まといだった。時には、「自分は野球を辞めた方がいいかも知れない」と思うこともあった。

一つ、好きな教科ができた。英語だ。勉強していくうちに好きになっていた。英検にも挑戦し、準2級を取得することもできた。自信のなかった私に、一つ得意なものがあった。

今年、中学校最後の大会を迎えた。私は、悔いを残さぬよう意識して練習に励んだ。自分の全ての力を出して試合に臨むと誓った。

大会当日、私は驚いた。何本も打っていた。何本も捕っていた。最終回、同点のまま2アウト・二塁で私は打席に立っていた。相手ピッチャーが投げた瞬間、球場から音が消える瞬間が、私にはたまらなく長く感じた。しかし、そのことが私を冷静にさせた。

今、私は安心して「野球部です」と言えるようになった。

私は今年15歳になる。人生という列車の旅の最中、私はいろいろな山を乗り越えてきたが、それは私だけで乗り越えてきたのではなく、自分の「好き」や「楽しみ」が支えとなってできたものだった。

列車の旅は今現在も進んでいる。時には列車が谷底に落ちそうになったり、豪雨で止まったりするかもしれない。その旅の間に、私は、どんなことがあっても支えてくれる「好き」や「楽しみ」を見つけていこうと思う。「楽しさ」は、私の人生列車の原動力なのだから！

～お知らせ～

【職員の紹介】

当校教諭の病気休暇が10月末まで延長となりました。休暇中の代替教員を紹介します。

池 久美子 先生

<主な担当>

国語の授業、3学年副
任、バスケットボール部副顧問

